お題目では困る保安優先

人車衝突で重軽傷12

エヤーパイプ破裂で吹飛ばさる

去る四月二十二日午後一時五十二分ごろ、三川坑三五〇米坑道旧万田本層本卸口附近で人車と炭函が衝突、脱線した。このため現場にあつた高圧エヤーパイプが破裂しエヤーに吹かれて桜本国義さん（採炭、原万田社宅）＝重傷、以下十二名が手、顔面などに軽傷を負うという事故がぼつ発した。

この事故現場はカーブでこう配のあるという非常に状況の悪いところで、当日事故現場に材料函がきていたが材料を入れ込まないうちに、十昇発一時四十五分の人車が通りかかつた。材料函が停止しているのを発見したときにはすでに三十米ぐらいしかなく、急ブレーキをかけたが電車が停まらず追突材料函が脱線した。

直ちに脱線復旧作業にかかつたがちようどこのとき十三昇を一時四十九分発した三箱二十噸積んだ炭函が後から運行してきた。現場にきかかると人車の尾燈を発見したので、あわててブレーキをかけたがこう配のため停らず人車に追突した。人車は押されて脱線、復旧中の炭函に急激に当り、脱線函は転ぷく。人車はエヤーパイプ（八吋）の熔接部に触れ、パイプは破れてものすごい勢いでエヤーが吹き出した。

これより前、第一回の脱線で復旧作業が遅れるというので、一部人車を降りて歩行（わずか二、三歩）しかかつたとき、第二回の衝突パイプ破裂で重軽傷十二名の事故となつたものである。

ちなみに現場はカーブとこう配があり、標識もないところである。

重傷の桜本さんは天領病院で手当中だが、顔部および左眼擦傷創で顔面一杯にほう帯でつつまれてベツドに横たわつているが、つぎのように事故の瞬間を語つた。

人車がガタンと停まり頭をガーンと打つたので何事かと思つた。電車が押してやつたが炭函は上らないしそれなら歩こうと思つて皆の方え降りた。（前から三両目に乗つていた）ほんの二、三歩行つたと思つたとき後から荷函がきてつき当り人車はジクザクとなり前の人が車にはさまれて二、三間飛んだのでアツと思い逃げようと思つたが、前には人車が横倒しになり逃げられなく、ハツとしたら自分も頭を下にして天井に吹き上げられ一回転して落ちた。このときは人車に押された！と思つた。落ちたときは意識を失つていたが、しばらくすると声が聞こえた。ものすごい音がする、エヤーの音とは知らなかつた。どうなつたのかと思い安全燈をタグリ寄せたが目が全然見えない。風が吹くので目にゴミが入つていると思い、水筒の水を口に含んで目を洗おうと思つたが体がきかぬ。それで声のする方えはつていつた。

そのご二、三人の人たちが助けにきてくれた。

また附近にいた人は

エヤーが吹き出てマツ赤な赤錆が出て来た。本人があまりこんのでテツキリやられたと思つた

以上が事故現場の状況であるが、以前からここは問題になつていたともいわれ、人車の出たあと、わずか四、五分の後にそのあとを炭函を運転するとは、あまりに保安優先を無視するものではないかという非難の声も起つているほどである。

また人車もこの事故の場合をみると片側だけしか出られず、応急の場合は両方に出られるようになつたらもつと事故が軽くて済んだのではないか、と人車乗降口の改善もさけばれていた。

とにかく一度あることは二度あると思わねばならない。保安のサボはあくまでも摘発して、保安優先を行わなければ安心して作業ができない。事故の原因、調査や対策については現在検討されているがこれを機会にもつと保安優先に目を向けなければならない。

希望探訪

配達を遅らす犬

表札は家族の分も

去る二十日は郵政記念日だつた。細谷大牟田市長もこの日は、一日局長として郵便局にポストをおき、目まぐるしい業務に触れた。徳川時代の飛脚から郵便業務はまさに日進月歩で今日の近代化された通信機構に発展しているが、こん回はこの郵便局へと探訪をこころみた。

大牟田郵便局は駅前、いわば大牟田の玄関口にあたるところに建てられています。終戦直後いち早く建てられたのだろうが、現在この建物に一六〇人が収容されているありさまで、全逓労組大牟田支部の古田書記長さんは「建物自体も老朽でいたんでいますし、おまけに部屋が狭くこれがいま一番のナヤミです」といつています。なるほど、例えば年末に年賀郵便を扱うときなどは手狭まなため仮設の室をつくらねばならないありさまです。また外勤の人たちの休息室なども立て混むときは立ちながら弁当を食べねばならぬと聞いてびつくりしました。定員も手一杯で人手も欲しいが、それよりも何とか広くというのがみんなの唯一の願いだそうです。二十万の都市にしては余りにも貧弱な建物となげかれています。衛生環境も悪く、窓もしまらぬとは……。それでも今年は優秀な成績をあげて表彰されているのです。

大牟田には外に集配特定局が三池に一つ、無集配局が市内に十七局あります。局にはいま庶務会計と郵便、貯金、保険の四つがありそれぞれの業務が行われております。一日平均しての郵便量は引受け一万五千通、到着一万七千通あり、小包が六百ちかくあります。勤務は三交替で夜間も一刻も休まず仕事はつづけられているのです。郵便物の多いときや、年末は全然混ることさえできないそうです。

炭鉱と違うのは夜勤の翌日は休みになつていることとです。ここで驚いたのは郵便局の保険のことです。集められた金は他の保険会社とちがつて市に融資され活用されていることとです。この金で学校や住宅、道路、橋などがいままで随分できていることでした。いままで短期、長期合せて約一億九千万円ちかくが融資されて、市民のためになつているのです。

配達するときのナヤミは犬のいる家だそうです。月に少くとも二、三件は配達の人がかまれて怪我をしています。それで大変恐慌をきたして配達も遅れる原因にさえなつているそうで、犬は必ずつないでもらいたいと訴えておられます。

それにいまは小、中学生の文通が盛んだそうですが、何々方と記入しないため折角の手紙が宙にまようことがあり、このため父の表札はもちろん、これからは家族の表札もぜひ掲げるようにとくれぐれも言っておられました。

【写真は大牟田郵便局】

＝解 説＝

総評は〝怪物〟ではない

国民の支持そらす日経連総会

▽…経営者側の労働問題担当機関である日経連（日本経営者団体連盟）が、四月十八日総会をひらいて、春闘に対する評価を出した。それによると「春季闘争の特長」は〝神武景気〟を背景に推しすすめられたので、賃金引上げでは総評および労組側の勝利に終つた、とハツキリ認めていること。「残された問題」としては、第一に総評に対する従来の過少評価を改めること。特に炭労、国鉄という二大労組が、部分的ではあるが石炭産地で共闘したこと。もしこれが全国的に実施されたら、日本経済を根幹からゆすぶる一大脅威となるだろう、と言つている。

▽…ところで総評は、それほどおそろしいものだろうか。どうやら日経連のホントのねらいは、資本家の御用新聞である日本経済新聞がいみじくも言い切つているように「日経連としては素直に総評の実力にビツクリしたという以上に総評の実力が暴力にまで発展することに対する懸念を国民一般にも訴えようとするのが〝ねらい〟のようだ」（四月十九日付解説）

▽…やれ総評は日共に引きまわされているの、暴力だのと言つて、総評はそれ程おつかないものでもないし、〝怪物〟でもない。総評はわれわれの選んだ労働者の代表によつて民主的に運営されているのであり、真に国民各層の要求をひつさげて、その先頭に立つて闘つているのは、われわれ労働者なのである。 （F）

戸高証言を拒否

核心に入つた菅生事件

全国の視聴を集め、特殊な事件としていま問題になつている大分県の菅生（すごう）事件控訴審は二十二日から三日間、福岡高裁で開かれた。

〝戸高は真犯人かどうか〟をめぐつて、連日弁護団側の尋問がはじめられ、はげしい追及が行われた三日間公判は徹底的に戸高の証人尋問をつづけたが、ついに証言拒否を行うというハメにまでおいつめられ、結論をみず打切られた。次回公判も連続公判となるもようである。

今回の公判であきらかになつたことは、オトリ捜査の実態を証言したこと、ダイナマイトの持ち運びも認めたことであつたが、爆破当時のアリバイについては、頑強にこれをあげたがアイマイで、この点についての弁護団の追及は公判中もつとも緊張した尋問となつた。またこんどの公判で戸高にどこまで証言させるかは警察当局でも、もつとも作戦を練つたもようであつた。

このことは〝オトリ〟という行為そのものを警察当局は割切つておつた。このため二十二日初日の〝オトリ〟捜査を認めた彼は、じつに雄弁であつたし、眼を輝かせ声も大きくしてときどき弁護人を逆襲する態度さえみせていたが、二十三日（二日目）弁護団のはげしい反対尋問がつづくとしだいにあわてだした。

ことに警察関係のことになると、混乱のいろをみせ、みている方でその苦しさがよく判るほどであつた。

このように彼の後には大きな権力が控えており、このため事件の結論も早急には困難視されているようである。しかし事件のアツピールとともに国民もどうしても真相を知ろうと願つており、権力の擁護も耐えられなくなるだろうし事件が核心に入るとともに、真相がバクロされることは間違いないものと思われている。

三日間の公判を傍聴した知名士も異口同音に、「筋書どおりの証言しか述べられなかつた。最終日の一番重要な点を、証言拒否したことはどうも犯罪の糸口があるなと直感した」（映画監督山本氏）。「三日間ぐらいで結末が判るものではない。この事件の裁判はまさにこれからである」（九大教授井上氏）。「事件の奇怪は警察があまりかばいすぎている印象を与えることで証言の態度も、自分一個ではどうにもならない。背後の力を考慮する苦しさが感じられるようだ」（作家火野氏）と語つておる。

写真＝**後藤秀生氏**（31）事件当時菅生日農書記長として農民運動に活躍。昭和二十七年六月二日未明菅生駐在所爆発容疑者として起訴され、大分地検一審で求刑十年を受けた。

俺にもいわせろ

▲みんなが云いたい事をみんなが聞くべきだ▲一口が一生を明るくする▲天性は苦労の中から

脱衣箱が狭い

三川 O生

○…いつものことだが、脱衣箱の狭さには全く困る。

これからさきはまた汗が出る関係上、とくに困つてくる。坑内の設備も大切だが、この方面の設備も必要だと思う。

悲観生

○…脱衣場所も狭いが、脱衣箱は狭くて困つている。

(1)箱の上段と下段とを一つにしてもらいたい。

上の箱に出し入れの人、同時に下箱の出し入れの人、また右、左狭い場所に人、人、狭い箱、雨天、冬になると箱は狭くて非常に危険です。夏は暑くてかなわない。上箱に雨傘を入れた場合、下にしずくがおちる。もちろん、ごみも一緒だ―。通勤衣、作業衣、オーバー、作業カバン、水筒、雨傘、長靴、雨衣、坑内帽、その他いろいろと入れるのに。

みんなよくも永いこと辛棒していることか

場所は無理をいわぬが

脱衣箱だけはなんとか広くならないものか……。

現在では困難

苦情は分りますが、現在脱衣箱と脱衣箱の間かくも狭く、それをするのにも脱衣場を拡張しなければできません。

とうてい上下一人使いとなれば現在ある第一、第二脱衣場のふときの脱衣場をつくらねばできませんので、現段階では一寸不可能であります。工事をやるにしても団交でもしなければ解決しません。

（三川労仂部）

検診立会に望む

三川 中島生

先日四月七日発行みいけ紙上の「私病検診に疑問」との件に付き私も誠実な体験を申上げます。

本所一組合員の投書の如く全く同様同感で御座います。(1)「かならず労働組合執行部の立会（労組出身理事では困る）を御願いするだけで、医師も健保の担当者の態度も変化する事だろう」と筆記してる。この条件に付き我々病者は早速実現するよう要望いたす次第でございます。我々組合員の中にはこんな病者が相当おるのに相違ありません。自分は出勤する自信はありませんといつても、無断で保険手当を打切る。いたしかたなく出勤すると病気はますます悪化する。また全快するには長引く病者もいるはずです。病者にとつては誠に残忍きわまる冷酷です。現在の執行部員で立会出頭はできるはずと思います。一般病者のために呉々もお願いいたします。

理事の立会はない

私傷病患者検診制度立会についての検診の必要性は、つい前回述べましたので皆様にはご理解していただいたことと思います。皆様もご承知のように前回記事中に「労組出身理事は困る」がありましたが、さらにこの事について投書がありましたので、このことについて説明いたします。

一、健康保険理事会では立会については定めていない。

二、健康保険理事の立会の事実はない。

の二点を述べ、検診の実態を説明いたします。

従来、公傷私病患者検診の立会には特例を除き厚生部が相当で行つておりますが、投稿者のご心配のようなことについては特に留意し、患者と緊密に連絡をとり、その都度医師とも連絡し処理しておりますので前回も述べましたように出勤督令に変形するようなことはないことを繰返しお伝えいたします。

（厚 生 部）

「予想外だつた」に不満

三川 加藤マン

総評を中心とした今次の春季賃上闘争は或る面から言つて大成功であつたといえよう。が、このこと事態にも問題があると思う。新聞、ラジオ等、そく信ずると言うことでは無いにしても、上部幹部と下部組合員との間は感度も異つていると思う。それに、もつとも注意しなければならないのは機関紙である。三月二十四日機関紙「みいけ」の一面、中闘をかこんで話合いに「予想外だつた13日の妥結」とある。内容を見れば同意すべき点は確かにあるにしても、正札要求として掲げた額から見ても「予想外だつた」と言うことにはならない。この点前に記したように感度の差異が組合員の中に生じたのは事実であり、炭労自体の謂う、自主的解決は労使間の成長であり前進又は誇りのように下部組合員へ楽観的に受けさせている。今期の賃上闘争は組合側の完全な勝利でした、と、経営者共は宣伝している。

感度の中から組合員及び家族も勝つたのだと意識づけられたことに一大の誤ちがあることを各組織機関紙の使命があり、率直に周知させなければいけないと思う。

組合定期改選は選挙規程を厳守せよ。

違反者は規約に従い処罰せよ。